

Y03b 多地点における気象データを対象としたデータアーカイブシステムの開発

飯島 輝久(和歌山県立海南高等学校)、他わかくメンバ

観測データの解析において、観測地における気象データは観測結果を評価する上で、必要不可欠な情報である。このため、観測地における気象データを取得し、閲覧を可能とすることは重要である。また、近接する複数地点における気象データからは、その地域における気象変化の予測が見込める。このため、これらの気象データを一括して扱う事は有意義である。

和歌山県北部の天文関係施設(みさと天文台・かわべ天文公園・和歌山大学)においては、気温や湿度などの気象データ及び雲画像が取得されている。本研究では、これらのデータをみさと天文台のサーバに集約し、保存管理・公開を行う事を目的としたデータアーカイブシステムの開発を行った。

気象データ及び雲画像は、http プロトコルを用いてサーバに転送する。サーバにおける気象データならびに雲画像のファイル管理には、リレーショナルデータベースマネジメントシステムとして PostgreSQL を用いた。登録されたデータは、jsp をインターフェースとしてデータベースで検索され、ホームページで閲覧できる。

発表では、今回開発したデータアーカイブシステムの詳細について説明する。また、アーカイブされたデータの利用についても議論する。

尚、以上の開発は平成 16 年度国立天文台大学支援経費にて行ったものである。